彩板
綴入

考證古文說

五

へ13
331
5止

門 音5
號 337
卷 3

名樹古今詠巻五

同 梅

妖女丸 述懷

年ゝ湯谷いのんであらさ花月乃精
付り神のやんごとなき小恵ちり月を入

臨中丸 寄来

年こ決定のふハ猶也天命ハ自然
付り神のいさりハいごんも神上
寄来丸 冨

明治三六年十月十二日
氏寄贈

製薬 招魂丹 大錫入金二十錢 中錫入金十錢 小錫入金五錢
製薬水舗 誠求堂謹製

禪僧の再来

年〻死でうゆりうち
かゝゝうを生んまいより　平業

対り僧うもゝ好むし
元屋の一番番ふい
世間の人うゝゆゝ

東京帝国大学図書館蔵書印

妖女の述懷

多へ嬉人へ侍人へ申しとゝいふ所おこゝの指言おりやど
内大臣家の御ちのの妻お月の中ふ桜の池月れどづしすか
いりのどんとゝいふ所ひそのひざちんだ地高の気
さうの逆ゆふ所ふ夜ふ月ふ池月ふうゆうづ老母ゆまひ
の庶ふうゝたのゝますゝ月ふ今一ゆびひまかゝくこれ
ていもゝのたさうの気ふの通あのゆふにゝもゆりたう
ゝ通べゆやもゆゝて方ゝゝおりゝおりゝ母の大ゆゝ
当てゆゝうゝうゝ月ゝゝうゝ母ゆゝ大ゆふいゝ通ふ
祈ひうれへはゝれゆゝもゝ大ゆゝゝゝ通ふ
さゆゝ子ゝうれ今ふうゝ人ふいゝゝゝゝゆゝゝ

えんべうれいくらいあんとせうもつを津のまれおやらこんつと
けるのち係業れをしに大ほうあすをやりるいちつ川てんぶ器ぜ
内記こやらうこのいすこ元月ときて傾らこのちの人今やうれ
うをまひいと行のこちてかんんゆうふやてくいうれゆな
四ぜん代ろうにわよぞぞとこれかりて内記へいす紙はこ
上屋とと不紀せこもれへ内記かこ海とまうあてこれと
四ろけや上えりてくいりこ元月ときいこをろ紙出らんあるふ
宮しにいうれをこうてあてやうあめのこびやうれのよそやひ
らこんぶんかたをみて才智きこせにそぐひこ大ほうちこを
ゆやがこいつことれてちん紀居ちんひつけて元月ときこ
あんぐこいつこちらやうあいあくんすをこてぐ足ろかくて
らこんぶの夜宴あんくこそやこのやく紙ちぐあこうふ琴こ

ゆそんこうこて元月ときこやこあるこてへいうれとの紙
上屋ちこてたは業の二門のこうこんぶこちこふ招待あるこふ能宅
宮教種一人やとれぐやこ元月へこそ来うあいぐりこと大ほうは
いこもものひ紙やちこよびやこうれ紙日こ海ひぐ
月れだやこうりこてやこもこれいるこ元のいけふおこまれこと
ちこうけくおのみおりこうこあこひ代宴会二門のこうんはいこ
こふ一人こて月人こうこそこうこれこのなこんおのくお
これ入てあやころぐ宴おこうこてのちの教種へばこれこもこ
人あこうれへ紙やちこうこそこちくこれこうこて聖行ぐちこん
来り大ほうふけんこんこてやこ国のこ服ぜんやこうの西京ふ分四
みちのやこうこん神威おこそ国ふ能こちこ海めこれこうこのこ
やこる雛人琴こにやこんこうこあひひこそのこうこ

おほし。修験者にもいでかすこしたちもの人をとりこめ
ひとりとして世人をとりこめてかくもの人元月中すぐ
わらひをとりて大臣中上りの人は能世とのいたりんをとりて元
親王大将をとりてこれをとりてしかるに人かあるをとりくに世
中にくうけのうれたゆへあるへの元をとりてゆりあるに
おこりてうんさをそいとりをもの人かやうにひりでありちん
かしとりの大臣の元月の月のあるうんをのあるべたうは
かさをとりて中の人かをとりてあるこのあるべたうは
中に徳一宮とあるもうけぶのあひのもちにはるもすぐて
中に別のうんをの四のうは能世とのあるをもあるて能世とのあるを
ちるふはそひひ者りあれしてあるりしあれば大臣の元月
いつかすぐをとりてよりあるとひるあるにおくは殿にるもうひ法
うんで二門はまのうはるうのあるまるもあの人月能世とのうちりるは
あらるもかるもうは藤人元月しもんの元人のうるあ
まるかそとりはるたりしあれば大臣ちうかふるものひ信女を
して元月出をとりるあるふあるしてりて信女をうるあ
元月ゆるるくうりしうふ大臣に大さふおとるあ
この信女をりてはをあるいのうちなくさをもあるふ
ちれとは大臣もうんうう性門ふてたるのあるべかれるがありける
はるのうにらんるおかりりと青綱たるうれはをりいるるる
あるもをもの人をうるいたるあるれて居のあるべたるのするはふ
ふけるひするるのるるくをたるふ
つけて世のあるはまるうるうるるる元月の聖かをとりふりてふ
るるのるるくうるるすまりて世のあるのあるのあるうは能世

どのやうあへてまひうをのこすくはごろかゝ　ほうにあるもの
うの方紙わさをあへこのかすの子よりあたらもちたるあ
なとうつみるけく大ほうあろ人ゝ紙ものうをいうろきの
やと四ひあへくうへうへまつひにたるはたれ秋月かやでの人
き精天の妙紙ろ白ろ品ろ書ろあこ紙
たくまあて書ろ紙落ゝ出ろ書ろけ改て紙こ深氏
の世紙ゝおこうんとせ上一門は中出ろ数強へうちみたゞ
ろ紙中ろのうろ矢のろ紙ろ人ればちうよなこあこうゞゝ今
うあこうひて上一ろとのうてはこ行ゝ書ゝ書ゝ
ひくゝうくおのひうろのあゝゝ行ろの三ろ紙ならて祖父で
りの代ろ剣の切紙ろとれあるろ天下の改勢大ふとうく紙
ゆと後ふだんゝあうるうくゝゆくとゝあゝゝみりうこひとうん

うをもぐもたちしこのみたてとそれからぬてびあそだも変へぎと
大信ちんくまてそぐがりけのくもいくすることなくうりく
せんうくまを五月大信二信はあまのかくもられてそそ
うふたのはかとさやうれるもばたばらちあてそれさびこの
而すれべうだと安えさもの心さ

賜中九嘉楽

をんぢふ生ろのの人うちはの所あをまりうをを信法れ楽
たらく安ぬたとろのの人ぬけそけくいさやうは仏どいや
所のをさたたちを安ちのくてみまれちうわてとれはまが
ふたりの人とれあ産まそををひたのとそれば与源れ大言と
えをちくを男ふたるのくはえ方れ志えあ人ん拝ら百風

ちんかけがをして人めをたすけたんやと甲斐武田家をうめ
どもゆるさ越後の領分より こんがう あんどもはらをたて
ぢきこんがうに来りてまつりをとられべき数月をまひとり神てをり
をくあるとの所の領分の明神らをまてりふ風をばくあ
さの立てすぐめうの公方のいぐさんをいけるとのいうぎをりろん
やうぐおをく年人をこんがりてあるおがう永中おくろ公さと
ひたをとうんとあいて居内をあるせのなりたるれてゆたを方紙
をこんがたをををみぐせ紙を立てあせるとこんどもいうんをあ
こをを金にもうんで死ををあ来とうをを潮うんのわどこを
中くをれと大きふをみぐ紙いてんでをまんがうくうふーてあひを
明あ神とうをんををを也やるれををふはをぐんをを中ある紙
ををこをみんでやだるへをんだあ神とてをを紙をいめ風紙

をををてこをうらのつうせんのをををんあんをんこを紙やちり
べ紙ふ今うくをををを風紙をいめるをいをどををこをこが
米紙明死ををて死ぐのをあるをををを紙ををふをを也
だんをゆんを居ををあるをををてあるくへをう奴とべ神をいをあを
つうををいりせんおをひをををを也をいををを紙やを紙をすをん
と大きをいうを紙をを紙をををかせををを下紙をををを紙へ
うをを紙あるりけるが居ををうふ神ををりを紙のをををて寝をるゆめを
をを紙ををりふををりけをを神人来りをを居ををををををを
をを紙をいををくをを紙をををを神をををを
ゆをををををを紙ををををを神をををを
ゆををををを紙ををををををををををを
つのををりを紙を居神をを紙をををををを紙をを居神ををををを

だんとうびおそろしほどの人にて世にまどつと野神姫神と
ゝの宮ふ初まで申ものもうちこぞちすてゝ世中にあまつて
二つ二つたゞ死神疫神申乃死者ばかりとありかれこれ
二ゝの神祇いうにて物たれ孫ゝおそろしぜんゝ死天帝
ゆるうてゝ多くれば物かの人ばかりにて半てゝ
服装をおこ市のものゝあゝに二ゝやと紙神とうちゝ人
をのゝそうにてよこうまゝあまりて言うゝこれゝ天帝
ゆるゆるゝ死ども死さゝに神びりとひちゆ十余ゝ
ひゝれゝ天帝やゝゝ死ゆすゝ世のゝ人れゝゆゝ
人のいたち死ゝゝとあさゝゝ物たゝゝ孫の内ゝゝひて
もゝゝ死ゝゝゝんでゝゝゝおゝるひゝ死せゝ死ゝされゝの
あゝべ二神ゝんほゝゝゝゝゝ今年のひゝゝ物ゝ死

ゝゝゝ死おゝゝひゝゝゝあゝゝゆゝちてゝゝ二神のいゝゝを
ゝゝもゝゝていさゝりゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人の死と生とハ天の命
みて已のまゝ身ハすてゝねと
えんぎ者ゆゑ
きふ迎ぼえと
いくど風あるべ
身ふのつゞ
万よろこん
を仕月ん
すべく
あのかたハ
ものぐるい
いたふ

のちハコたん家ハ乃くんくん家ハ
ぜんぜんあてもまんが作勢もせで
ようあてうちつも亜和ゆくよ憂おもてけさほく
らたけもあるゆくあもずみあびたすり勢めづし
く乃ふれぬうこ山ハこ目ハかうてもも作勢の津よか
つまぬうもさに女ハうちもれて実首産大きふおど
ろたうもあるを亜ありてさたぶたそ悪傍くうぢ公ゆうといひ
乃ふてうよぜひもうたうたう茅うしたれと吐見ってや公汚屋守く
けりかうぬ出坊のあうぢにたそのりも女ハ魔漢ちゆん傍乃
ゆくこいうよハさ角てうれがもこんゆくうぢうぐどこ
も女ハありて多く乃生れぐもけハふけ言亜今ゆうに
うのゆよハ田人ありやと四人宵産ちうぐ公うわ亜乃ぢん

そくのことわり今にたゞ光ゐてゝれゞゝ長保ゞ命終はしぬ
さうありねを寄こゝろあはれ多くの女中ふさあて情ゆん
せものあるべしこれ長保ゞあてびは氏託すうおゆてうを
いきゞ死せざる少人にれもまゝ産せびすでに三ひふうねと
おゞゆたゞゝ長保今は西ふ寄るもいん多人は寄ゝとうふにて
のゞうゝあゝゆびきれゝゞふあうりて姫御のやうす氏ふ寄を
うをゞあゝさんを夫合ひ今ふ長保ゞまいゝすりは産氏あゝゆ
なゆゝ言ゝてうれ寂せばうれゆゝゞうゆんまゝ言氏すだ
きゆうは方ふいゝりうゝ西れうゝ氏ふりゝ長きれと見てれゝひ
うゞうゝゞ所来うゝゞひりとゝ言ゆゆゞゝゆゝくゞにあうりゝく
ゆせうゞゝしゆゝゝぬゝうれゝよりつゝゝは産氏出ゝわゝとうれ
ゞ可ゆうゆとけゝあゞゝちゝうとあうゝゞ氏ふあゝされゞゝも保

のいのちおりゝんとあうゝにそゆゆ氏ゞ何ふきうゞうゝんや
たゞ長ゞてゆてうゝ氏出さんゝゝ男産わゝゝれておろうく
富きゝ死生ゝれ夫ゆゆれさゞすりたゆ氏ふのゝそんゞうゝたゝゝ
べうゝゞたゝゝいゞう方へうゝゝものうゝてゝあうゝゞゝゞ長保ゞんさい
後ゝゝよりあるか復ゞにりては浦の庄家嘉家ゆゝて出ゝ長ゞさ
ゞゆゝゝんゝゝてゞすゝまれゆ内氏ゆりにくゞゞあげうれゞゞ浦尾は
ゞゞひゝゝ行ゝるゞ行ゝ氏ゆ行ゝの神ゝゝゞ氏いゝ女ゝんゝゝゝゝゝゝゝ
うゞゞひうゝゝゝに女ふたゞゞひゝてゆ遠せゞ産産氏爆ゝゝゝ
うゝんゝ永中ゝ一奥ゝうゝんゝゝ氏にうゝ月きゝあゝゝゝゝゝ女の中氏
月きうゝゝゝゝゝゝ女ちゝゝゝゝゝゝゝ

だゆてありやとゝいへあり今の世ゝ世てゝゆてうぶと
四方ゝ世ゝ祭り三ゝ月おゝよびゝ今にゝんゝのゝもすくりゝや
ゆゆゝひにゝよりてうくゝもありやゝゝんゝゝゝ家ゝゝ出業にゆゆでんを
今ゝゝゆゝんゝに扶遠ゝゝゝよゝゝゝ色ゝくゝゝ仏ゝゝゝ

法師とちゆきうの物ぬすみて所をとまりぬふ所に中ゝ曉天ふ
冥着座いさのもうの光りけいきすく祈ぬるぬ
可内ハのぬすが死ぬらのはまぬ
うの方の西座ゝ方より出ぬげ
たりと中事ハ法師たげとさるゆ
やはぬそれより三日すぎて可内ハ元てん方へゆくゝ
ぬるひざめ死合ひ可内と足て若ちうぬよ物ぬびたち出
さてくあるが死仕合せ出うげ
ゆてこれくをもぬ光一ぬよ
とはらん不ぬとさるゆんぬ
と可内乃ゝよ冥着座が新ふ
足て方ゝうげふはぬくゝもはゆ

んゝ考ぬくして夢ぬ
がゝりはぬバ考く奇夫のおの
うゝ物ぬをあゝくゝりゝ可内へゝ出ぬのゝて金子二百ぬ
はぬの小袖ぬ着ぬれぬを為へての考ぬのゝ考ぬ物ぬ
ぬゝよゝ物ぬの思らんゝ不可内ゝ仕合せ人とをゝ物ぬ物ぬ

大尾

山形くゝ出ゝ中ゝ

一弘法大師秘密記　全一冊

付り　小野小町風雅記

右物ぬくゝ方ひ方秘ゆ口伝意ぬゝ

正月二日ゆ年ゝ重ゝ仕りくゝめ四尾ゝうゝん

一傾城戒圖案　金紙又冊

并ニ右ハ白い新悔人ハ赤い新吾妻わらんべ
付り花とゆべ楊弟とゆべ妓女高てもたゆ
お姫様ものがたり文

右書留正月二日ニ出来ひ
ゆ編入ニ下ル

明和八辛卯年正月吉日

仙台橋南四丁目　吉文字屋市兵衛
日本橋南三丁目　同　次郎兵衛

大坂出雲
江戸出雲

定榮堂藏板目錄

大坂心齊橋南四丁目　吉文字屋市兵衛
江戸日本橋南三丁目　同　次郎兵衛

雲水閑雑筹　漆山の桃紫紙ふなくて人の故を手紙入全部五冊
男色大鑑　西鶴作　全部八冊
和漢人物故事　婁優曲の面白き哭を あつめ絵入四冊
小性形氣　よしとの氣質に悪くかゝる事を記す絵入六冊
武士形氣　武士の義理ふるき哭一絵入五冊
可笑記　人のとゝへ不思議きを事をかけまゝに出絵入五冊
續可笑記　絵入五冊
浮世物語　絵入五冊
赤染衛門續輩　絵入五冊
滑稽雌黄　故子の表味と名ぞの哭ふ手絵入四冊
淺井物語　江州淺井三代の風軍と化す全部六冊
岩鄭躅　男色の哭一ヶ字の本二冊
義經記　絵入八冊
狂口子代万歳　絵入五冊
通俗金翹傳　唐の小説と中つげかく全部八冊
武家拾要記　武家の故実おろくり五冊
西播怪談実記　くるま一ふの感一き哭を絵入九冊
武人訓　武士の学ぶべき事を集む五冊
新撰百物語　近代おやーき哭絵入五冊
狂口閑談　狂口閑談絵入五冊